

病害虫発生予察情報予報第 9 号

佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 ^{注1)}	12月の予想発生量 ^{注2)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病害虫 (抜粋)
		平年比	前年比		
タマネギ	べと病	やや多	並	266~268	
	ボトリチス葉枯症	並	並	269	
	1. べと病 苗床での薬剤防除を行うとともに、本圃ではジャストフィットフロアブルやザンプロDMフロアブルによる定植後の防除をできるだけ早く実施する。また、罹病株の発生を認めた場合は、直ちに抜き取って圃場外へ持ち出して処分する（平成 29 年 11 月 21 日付け病害虫対策資料第 12 号参照）。				
イチゴ(本圃)	ハダニ類	並	並	214~215	 ハダニ類
	うどんこ病	少	並	204~206	
	灰色かび病	並	並	198~199	
	アブラムシ類	並	並	219~220	
	1. ハダニ類 一部の圃場で発生が認められる。発生初期に防除を徹底する。また、天敵を利用する圃場では有効薬剤によりハダニの密度を 0 頭レベルに抑えた後に、天敵（カブリダニ類）を放飼する（防除のてびき P552~P557 参照）。 2. 薬剤散布におけるミツバチへの危害防止 薬剤散布を行う際はミツバチの巣箱を圃場外に持ち出し、ミツバチがハウス内に入らないようにする。また、ミツバチが活動する午前中の散布は控える（導入可能日数は防除のてびき P547~P551 参照）。				
キュウリ	べと病	少	並	184~185	 ミナミキイロアザミウマ
	うどんこ類	やや少	並	182~183	
	褐斑病	並	やや多	187~188	
	アザミウマ類	やや多	やや多	196	
	コナジラミ類	やや少	並	195~196	
	1. ミナミキイロアザミウマ（黄化えそ病）、タバココナジラミ（退緑黄化病） ウイルス病の罹病株を認めた場合は、早急に除去し処分するとともに、媒介虫の薬剤防除を徹底する。また、植え替え時にはキルパーを用いて古株を完全に枯死させると同時に 2 週間程度の蒸し込み処理により、媒介虫（成幼虫）の死滅処理を行う。				
トマト	葉かび病	やや多	やや多	231~232	 コナジラミ類
	灰色かび病	並	少	226~227	
	コナジラミ類	並	やや少	157~159	
				234~236	
1. コナジラミ類（黄化葉巻病）、アザミウマ類（黄化えそ病） ウイルス病の罹病株を認めた場合は、早急に除去処分するとともに、媒介虫の薬剤防除を徹底する。					

作物名	病虫害名 ^{注1)}	12月の予想発生量 ^{注2)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
ナス	すすかび病	やや少	並	235～236	 すすかび病
	灰色かび病	並	並	234～235	
	菌核病	並	やや多	237	
	アザミウマ類	やや少	少	160～165 247～248	
	コナジラミ類	やや少	並	157～159 248～249	
	1. アザミウマ類・コナジラミ類 タバコカスミカメを導入した圃場においても、本虫が多発生した場合には、発生をおさえるため薬剤防除を実施する。 2. すずかび病 初発生を確認後、直ちにダコニール1000（TPN水和剤）を散布し、約1週間後にベルコートフロアブル（イミノクタジンアルベシル酸塩水和剤）を散布する。これを約1ヶ月間隔で実施することで本病の発生を低く抑える。 3. 菌核病 一部の圃場で発生が認められる。発病部位は早めに除去し、発生初期の防除を徹底する。				
アスパラガス	1. 褐斑病、斑点病、茎枯病、ハダニ類対策 これらの病虫害は発病茎葉、刈株等で残存するため、茎葉刈取後の残さは圃場外へ持ち出し適切に処分する。また、灌水チューブに付着した泥、残さをほうき等で除去するとともに、圃場全面をバーナーで丁寧に焼却する。				
キク	白さび病	やや少	並	390～391	 アザミウマ類
	アザミウマ類	やや多	並	394～395	
	アブラムシ類	やや少	並	397～398	
	ハダニ類	やや少	並	396	
	ハモグリバエ類	やや少	並	399	
	チョウ目害虫	やや少	並	398～399	
	1. アザミウマ類 一部圃場で発生が多い。本虫の発生状況を随時確認し、低密度時からの防除を徹底する。 また、一部で茎えそ病（GSNV）の発生が認められる。発病株は早急に抜き取るとともに、本ウイルスを媒介するミカンキイロアザミウマの防除を徹底する。				

注1) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「[佐賀県病虫害防除のてびき](#)」も参照してください。

II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去 10 年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
 なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
- 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（1 ページの予報の概要にリンク有り）。

写真

- 1 ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
 4 ページ目以降：巡回調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

12月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する 12 月の気象条件については、福岡管区気象台発表の 3 ヶ月予報（平成 29 年 11 月 24 日）を基に、「気温：平年よりやや低い」、「降水量：平年並」と判断しています。

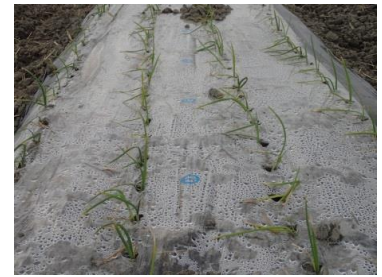
気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	3ヶ月予報における12月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	40	40 (7.6°C)	20	やや低
降水量	30	40 (47.7 mm)	30	並

Ⅲ. 12月の予報

タマネギ

巡回調査 (20 圃場)
調査日：11月23、24日



巡回調査の圃場の様子

1. ベと病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い (前年並)

【12月に発生する可能性は低いが、苗床及び本圃での感染程度が平年に比べやや高いと考えられる】

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況 (図1参照)

発生株率：0% (平年0%、前年0%)
平年比：並 (±) 前年比：並 (±)

(2) 圃場の菌密度

近年、本病の発生が多い傾向が続いているため、圃場の菌密度は平年並～やや高いと推察される。 (±～+)

(3) これまでの気象条件

佐賀市の9月の降雨日数は17日であり、卵胞子の感染に適した条件で経過した。 (＋)

【農林水産省「病害虫発生予察調査実施基準」によれば、9月の降雨が多いと卵胞子による感染を助長するとされており、9月の降雨日数が15日以上の場合には多発生すると予想される】

(4) 12月の気象条件

降水量は平年並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

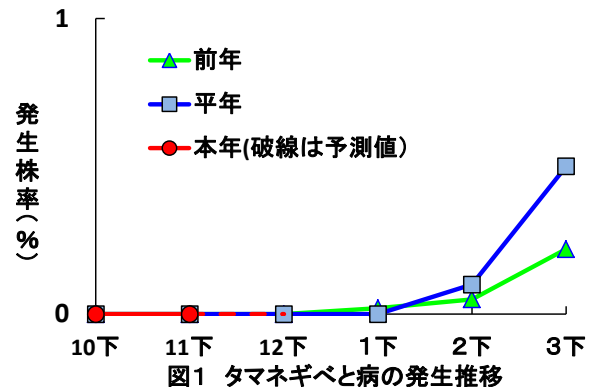


図1 タマネギベと病の発生推移

イチゴ (本圃)

(巡回調査 11 圃場、防除員 6 圃場)
調査日：11月17日～24日



巡回調査圃場の様子

1. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1参照)

発生株率：6.4% (平年 5.9%、前年 2.0%)
平年比：並 (±) 前年比：やや多 (±～+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 圃場によって薬剤の感受性が異なるため、防除効果を確認しながら、防除薬剤を選定する。

(2) 同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう計画的に防除を行う。

(3) その他については特記事項を参照。

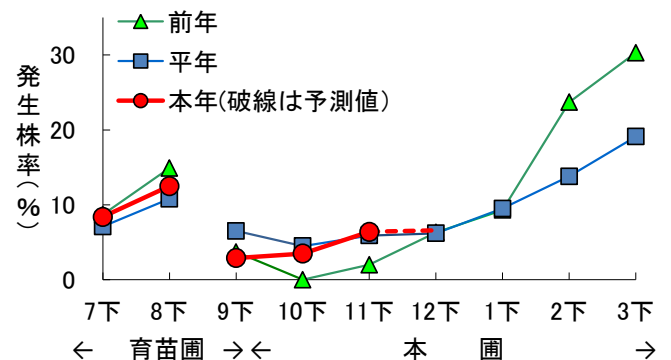


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年より少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：0%（平年15.7%、前年6.0%）

平年比：やや少（一～±） 前年比：並（±）

(2) 12月の気象予報

降水量は平年並で、並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 約10～14日間隔の薬剤防除と硫黄粒剤のくん煙処理を組み合わせで防除を行う。

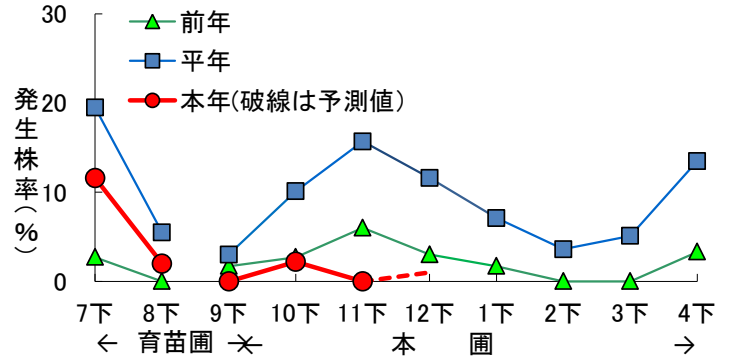


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

キュウリ（抑制）

（巡回調査8圃場）

調査日：11月17日～24日



1. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：10.0%（平年5.7%、前年3.8%）

平年比：やや多（±～+） 前年比：やや多（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

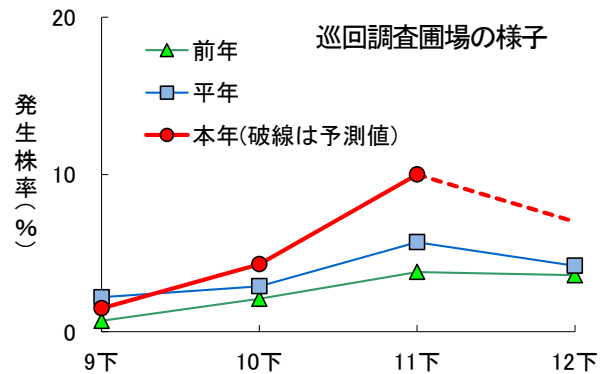


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

2. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：1.4%（平年8.2%、前年11.9%）

平年比：やや少（一～±） 前年比：やや少（一～±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

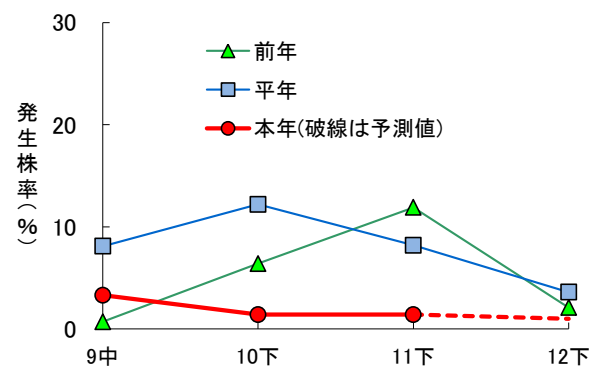


図1 コナジラミ類のキュウリでの発生推移

トマト

（巡回調査8圃場、防除員6圃場）

調査日：11月17日～24日

1. 葉かび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）



巡回調査圃場の様子

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

①巡回調査 (図1参照)

発生株率: 2.1% (平年0.8%、前年0%)

平年比: やや多 (±~+)

前年比: やや多 (±~+)

(2) 12月の気象予報

降水量は平年並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生初期からの防除を徹底する。

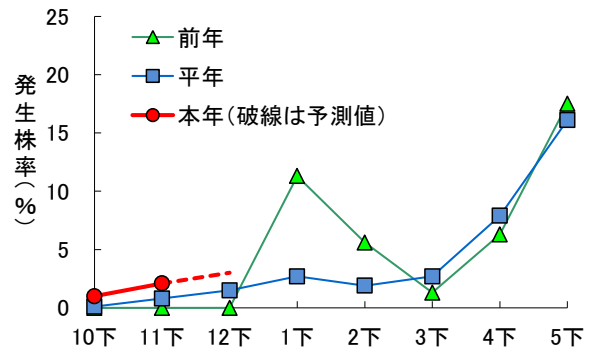


図1 トマト葉かび病の発生推移

2. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量: 平年並 (前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

①巡回調査 (図1参照)

発生株率: 4.3% (平年4.7%、前年2.5%)

平年比: 並 (±) 前年比: 並 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

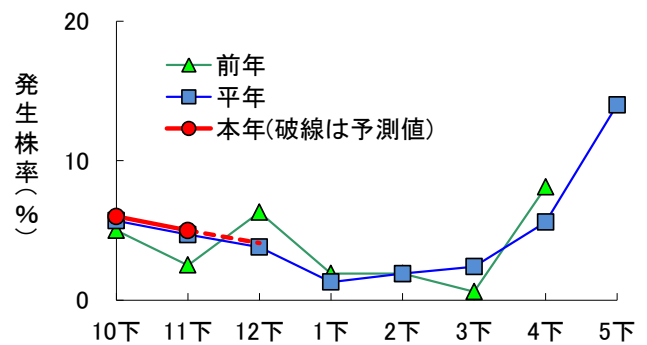


図1 コナジラミ類の圃場での発生推移

ナス (促成)

巡回調査 (7圃場)、防除員調査 (6圃場)

調査日: 11月21~24日



巡回調査圃場の様子

1. すすかび病

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや少ない (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

①巡回調査 (図1参照)

発生株率0% (平年0.3%、前年0%)

平年比: やや少 (一~±) 前年比: 並 (±)

(2) 12月の気象予報

降水量は平年並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

(2) その他については特記事項参照。

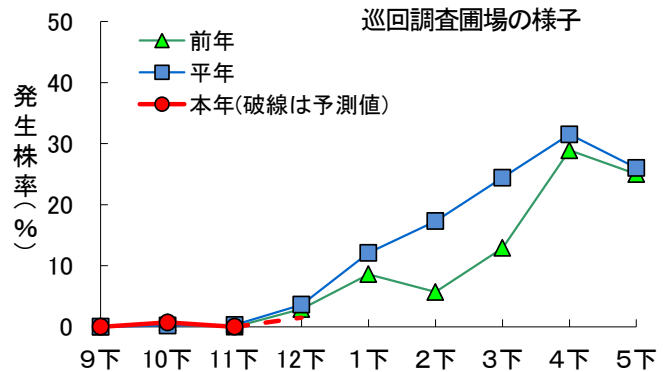


図1 ナスすすかび病の発生推移

2. 菌核病

1) 予報の内容

発生量: 平年並 (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1 参照)

発生株率 0.4% (平年 0%、前年 0%)

平年比: 多く(+) 前年比: 多く(+)

(2) 12月の気象予報

降水量は平年並で、並発生の条件(±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

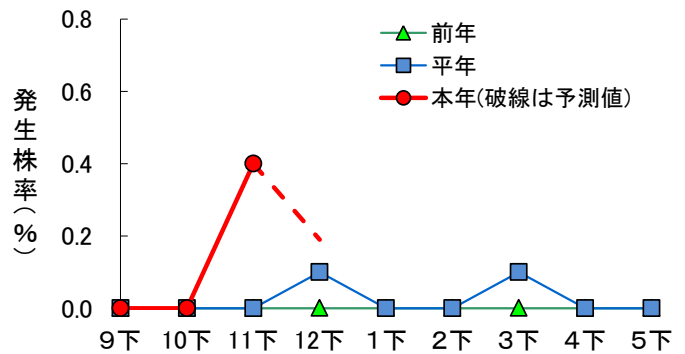


図1 ナス菌核病の発生推移

3. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや少ない (前年より少ない)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1 参照)

発生株率 11.9% (平年 26.5%、前年 26.4%)

平年比: やや少(一~±)

前年比: やや少(一~±)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。
- (3) その他については特記事項参照。

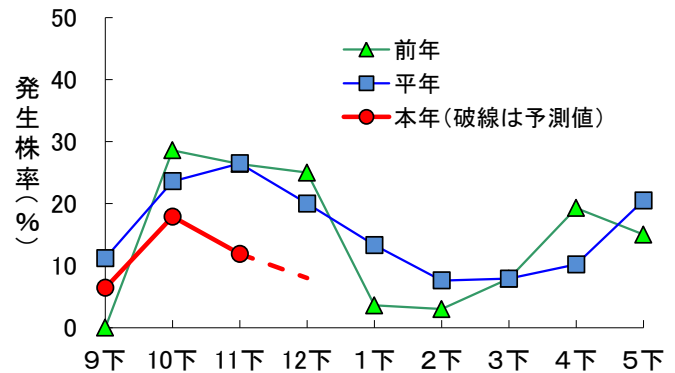


図1 アザミウマ類のナスでの発生推移

4. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや少ない (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1 参照)

発生株率 22.3% (平年 37.3%、前年 22.1%)

平年比: やや少(一~±) 前年比: 並(±)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。
- (3) その他については特記事項参照。

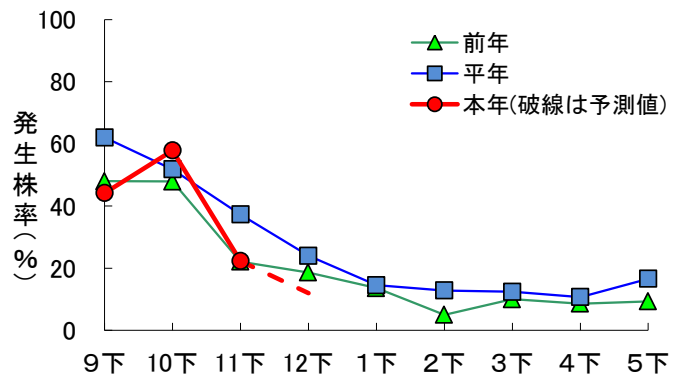


図1 コナジラミ類のナスでの発生推移

キク

巡回調査 (8 圃場)

調査日: 11月21~24日

1. 白さび病

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや少ない (前年並)



巡回調査圃場の様子

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

①巡回調査 (図1 参照)

発生株率0% (平年1.8%、前年0%)

平年比: やや少 (一~±) 前年比: 並 (±)

(2) 12月の気象予報

降水量は平年並で、並発生条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 施設内が多湿にならないように適宜換気を図る。

(2) 発病後の防除では効果が劣るため、薬剤の定期的な散布と硫黄粒剤のくん煙処理を組み合わせで防除する。

薬剤は、葉裏や下位葉にも十分かかるように散布する。

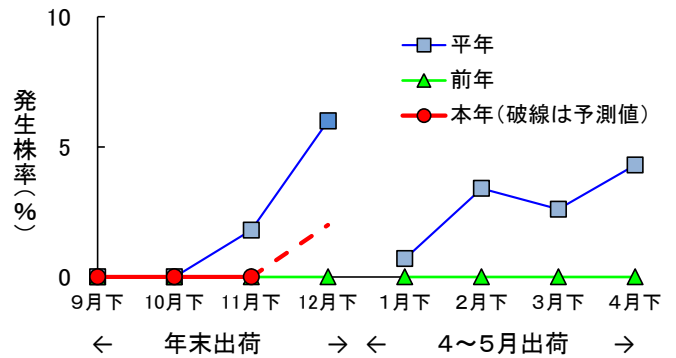


図1 キク白さび病の発生推移

2. アザミウマ類 (クロゲハナアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ)

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

①巡回調査 (図1 参照)

発生株率6.0% (平年3.4%、前年5.8%)

平年比: やや多 (±~+) 前年比: 並 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) クロゲハナアザミウマは葉裏に寄生していることが多いため、葉裏にも薬液がかかるよう丁寧に散布する。

(2) その他については、特記事項を参照する。

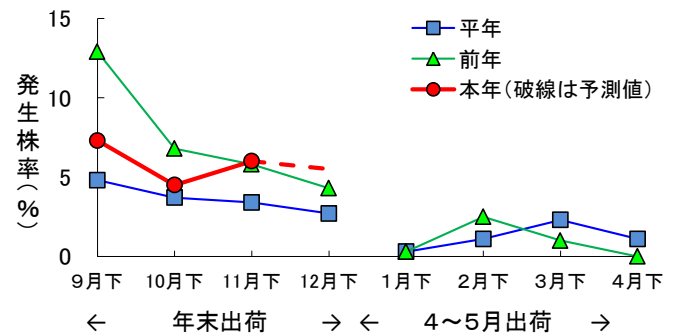


図1 アザミウマ類のキクでの発生推移

3. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや少ない (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

①巡回調査

発生株率1.8% (平年7.1%、前年1.3%)

平年比: やや少 (一~±) 前年比: 並 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう散布する。

(2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

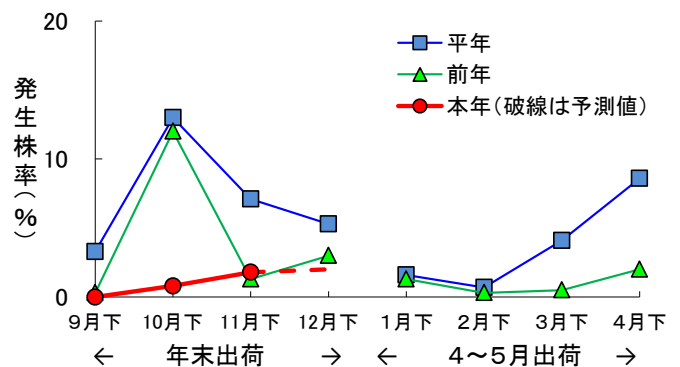


図1 ハダニ類のキクでの発生推移

連絡先: 佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
〒840-2205 佐賀市川副町南里 1088
TEL (0952) 45-8153 FAX (0952) 45-5085
Mail nougyougijutsu@pref.saga.lg.jp